

◎棧敷女房御返事（無量無辺の功德の事）

「我ところをおこして、法華經の御ために御かたびらおくりたびて候。」

（御書新版 1704 ページ・御書全集 1231 ページ）

◎永遠の經典〔御書〕に学ぶ

大聖人のように、御供養に対して、こまやかに御礼の御手紙を書かれている宗教者はほかにいないでしょう。御消息の御書のほとんどは、御供養に対する礼状です。心には心で応える。誠実には大誠実で応える。電光石火で応える。これが大聖人でした。戸田先生の問題もそうでした。これを今日まで貫いたからこそ、創価学会は発展したのです。

（『永遠の經典〔御書〕に学ぶ』第1巻 11 ページ）

◎聖愚問答抄

「一は万が母」

（御書新版 578 ページ・御書全集 498 ページ）

◎創価女性協議会（2004 年 2 月 27 日）でのスピーチ

女性が輝く時代である。

皆さんの使命の舞台は限りなく大きい。

（中略）

広宣流布に生きる人生ほど、偉大なものはない。

その功德は、自分自身はもちろん、子や孫、子孫末代までも包んでいく。

（中略）

戸田先生は、よくおっしゃった。

「自分一人が幸福になるくらい簡単なことだ。子孫末代まで、幸福になっていくのが大聖人の仏法なのである」と。

われら妙法の同志は、生々世々、自分自身が仏の福德に輝いていくだけでなく、子どもたちや孫たちも、永遠に、幸福の軌道を進んでいくことができるのである。

（『池田大作全集』第96巻 72 ページ）